

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 平成26年11月14日（金）第2校時
 場 所 熊本大学教育学部附属中学校実践センター
 年 組 熊本市立龍田中学校 3年1組
 男子17名・女子15名 計32名
 指導者 熊本市立龍田中学校 教諭 龍野 成敏

1 単元名 「市場経済と消費者市民社会」（教育出版P120～143）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領の公民的分野「(2) 私たちと経済」の「ア 市場の働きと経済」に該当するところである。ここでは、経済活動の意義について消費生活を中心に理解させるとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させること、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせることをねらいとしている。

日本での消費者教育は、1968年に消費者保護基本法が制定されて以来、消費者被害防止のための教育として捉えられる傾向にあった。しかし、2004年に新たに消費者基本法として改正されてからは、消費者を「保護される対象」から「自立した主体」として捉えるようになってきた。さらに2012年に制定された消費者教育推進法の基本理念では、「消費者教育は、消費者が消費者市民社会を構成する一員として主体的に消費者市民社会の形成に参画し、その発展に寄与することができるよう、その育成を積極的に支援することを旨として行わなければならない」と規定している。

ここでいう「消費者市民社会」とは、「消費者が、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会」のことである。

この単元を通して、自らの消費活動が市場経済を介して、現在や将来の社会及び地球に影響を及ぼすことを自覚させることは、未来を拓く生徒達にとって、消費活動の経済的意義・社会的意義を気づかせるうえで大変価値あるものだと考える。

(2) 系統観

本単元における系統は以下の通りである。

小学校社会科	中学校社会科	
第3学年	第2学年地理的分野	第3学年公民的分野
(2) 地域の人々の生産や販売について、携わる人々の工夫を考える。	(2) 日本の様々な地域	(1) 私たちと現代社会
	第2節(ウ) 資源・エネルギーと産業	第2節 現代社会をとらえる見方や考え方
	第3節(エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察	

(3) 生徒の実態

本学級は、明るく活発な生徒が多い学級である。積極的に発表や質問をすることができ、とても意欲的である。また、男女問わず仲が良く、わからないところは互いに教えあうことが日頃からできている。本単元での生徒の実態を事前アンケート（平成26年10月15日調査、対象人数31人）から分析した。結果は以下の通りである。

（事前アンケートより）

①～③の設問は、「できている（好き）」～「できていない（嫌い）」を5段階評価で回答。数値は回答した生徒の人数（人）。

設問	5	4	3	2	1
①授業中の発問などで、自分の考えを書くことはできていますか。	10	10	9	2	0
②話し合い活動は好きですか。	11	8	10	0	2
③話し合い活動では、自分の考えを発表できていますか。	7	10	13	1	0

④あなたがお菓子を買うときに重視する点は何ですか。1～3まで順位を書いてください。

（1位を3点、2位を2点、3位を1点と点数換算して集計。）

ア：価格 64点 イ：品質 62点 ウ：産地 16点 エ：環境によいか 2点
オ：デザイン 12点 カ：ブランド・メーカー 12点 キ：流行 9点
ク：サービス 0点 ケ：社会貢献 2点 コ：その他 1点（なじみがあるか）

⑤あなたが日本や世界の社会問題の中で、最も気になっているものはどれですか。

ア：環境問題（温暖化・熱帯林の減少・砂漠化など） 16人
イ：経済格差（南北問題・児童労働・途上国の貧困など） 2人
ウ：人口問題（少子高齢化・人口減少・人口爆発など） 3人
エ：地域紛争（パレスチナ問題・核開発・テロリズムなど） 9人
オ：食糧問題（食料不足・水不足・自給率の低下など） 1人

⑥⑤で選んだ社会問題を解決するために、あなたができることは何があると思いますか。

・節水、節電 4人 ・ゴミの減量 4人 ・エコ商品を買う（エコカーなど） 4人
・ゴミの分別 3人 ・募金する 2人 ・植物を育てる 2人 ・話し合う 2人
・子どもを産む 2人 ・詳しく知る 2人 ・自分のこととして考える 2人
・その他（支援物資を送る、ボランティアをする、地産地消、意見を言う）1人

このことから、話し合い活動に積極的に参加し、自分の考えを表現することに苦手意識を持っている生徒は少ないことがわかった。商品（お菓子）を購入する際に重視する点では、「価格」が一番多く、次に「品質」が多かった。また、日頃から環境への影響や社会貢献などを考えている生徒は少ないことがわかった。しかし、社会問題の中で最も関心が高いのは環境問題であり、地域紛争や人口問題にも関心を示している。社会問題の解決のために自分にできることでは、多様なアイデアが出されたが、消費行動が解決につながるという意識を持っている生徒は少なかった。

(4) 指導観

- ・生徒の探求心を喚起するために、国内の大企業製・フェアトレード・高級志向という三つのチョコレートを提示し、そこから商品価格の背景にある生産過程を調べ、消費行動がどのような経済活動につながっているかを考えさせたい。
- ・自分たちの消費行動が、「市場原理」を介して、自分たちの望む社会を形成していくことにつながるということに気づかせたい。
- ・自立した消費者として、多面的・多角的に考察し公正に判断できるよう、環境への影響や社会貢献など、商品を選択する際の視点が増えるように指導したい。

3 単元の目標

関心・意欲・態度	商品の生産・流通過程を調べる学習を通して、自らの消費行動が、日本や世界の経済や社会にどのような影響を与えるのか、意欲的に追究することができる。
思考力・判断力・表現力	生産と流通における「効率」と「公正」などの視点から、将来の自立した消費者としてのあり方を多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。
技能	価格の設定につながる生産や流通の過程や、消費行動が経済や社会に与える影響について、様々な資料から有用な情報を適切に収集、選択し、読み取ることができる。
知識・理解	自らの消費行動が、市場経済を介することで社会に影響を与え、自らの望む社会を築くことができるという、消費者市民社会の本質について理解することができる。

4 単元の指導計画及び評価（規準）計画（全4時間、本時4/4）

次	時	学習活動	評価
単元を貫く課題：よりよい社会を築くためには、どのように商品を選択すれば良いのだろうか？			
1	1	「市場経済の中の社会的責任」 ○市場経済における、企業・金融機関・消費者それぞれの責任と、消費者市民社会という考え方について理解する。	○消費者には、最後の選択者としての責任があり、消費行動を通じて、望ましい姿に社会を変えていけることを理解することができる。 (ワークシート)【知識・理解】
2	1 / 3	「価格につながる生産と流通」 ○価格の違う三つのチョコレートについて、ジグソー班に分かれて、原料調達や流通経路、社会貢献などの違いを調べる。	○価格の設定につながる生産や流通の過程についての情報を、様々な資料から適切に収集、選択し、読み取ることができる。(ワークシート)【技能】 ○自分の与えられた役割を果たすため、意欲的に活動している。(観察)【関心・意欲・態度】
	2 / 3	「各チョコレートの特徴比較」 ○ジグソー班毎に、各社のチョコレートのセールスポイントや社会への影響をまとめ、全体で発表をする。	○自分の調べた商品について、「効率」と「公正」などの視点から多面的・多角的に考察し、表現できる。 (観察・ワークシート)【思考・判断・表現】
	3 / 3 本 時	「消費者市民社会の構築」 ○よりよい社会を築くためには、どのように商品を選択すれば良いのか、考えをまとめる。 ○今後、買い物をする時に意識したいことを考える。	○自らの消費行動が消費者市民社会の構築につながるという社会的意義をふまえ、今後どのように買い物をしていくかを、自分の言葉で表現することができる。 (ワークシート)【思考・判断・表現】

5 本時の学習

(1) 目標

○自らの消費行動が消費者市民社会の構築につながるという社会的意義をふまえ、今後どのように買い物をしていくかを、自分の言葉で表現することができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	教師の指導 (予想される生徒の反応)	教材 資料等
導入	15	1 各社のチョコレートのセールスポイントや、買い手が増えた時の社会に与える影響を再確認する。	一斉	○前時の発表をいかして、画用紙やスライドを使って、各社の特徴を端的に発表させる。 ・A社のチョコは、安くしているんな所で買える。 ・B社のチョコは、公正な取引を重視している。 ・C社のチョコは、とことん品質にこだわっている。 ○他社のチョコレートに対する質問や意見がないか確認する。	画用紙 PC テレビ ワークシート
展開	25	2 「よりよい社会をつくるチョコレートの選び方」について、考えをまとめる。 補 考えが偏っている場合は、商品を選択する際の様々な状況を想像させる。	班 ↓ 一斉	「よりよい社会をつくるチョコレートの選び方」を考えよう！ ○どのチョコレートを選ぶかだけで終わってしまわないよう、複数の根拠を考えるよう指示する。 ・児童労働の防止や、原産国の支援につながるように、企業の社会貢献活動に注目して選べば良いと思う。 ○プレゼントとしてあげるとしたら、どのチョコを選ぶかな？ ○社会貢献につながることだけが、よりよい社会をつくる選び方なのかな？ ○聞いている人の共感を引き起こすよう、具体例や体験談を交えて説明できるよう指示する。 ・バレンタインは高級なチョコをもらう方が嬉しいから、C社のようなチョコが増える社会もいいな。	ワークシート ミニホワイトボード
まとめ	10	3 今後、買い物をする時に意識したいことを考え、発表する。	個人 ↓ 一斉	○今までの自分と比較して考えるよう指示することで、自己変容に気づかせる。 ○今回はチョコレートを題材にして調べたが、他の商品でも同じことが言えること、一人一人の消費行動が消費者市民社会の実現につながるのとまとめる。	ワークシート

(3) 本時の評価

場面	評価規準
評価	A：自らの消費行動が消費者市民社会の構築につながるという社会的意義をふまえ、今後どのように買い物をしていくかを、自分の言葉で表現することができる。 B：今後どのように買い物をしていくかを、自分の言葉で表現することができる。